

胃バリウム検査をお受けになる患者様へ

検査を安心して受けていただくための簡単な説明です。
検査をお受けになる前にお読みください。

1 検査の目的は？

胃は、お腹の中の左上部に位置しています。胃は、可動性のある臓器です。空腹時には、萎んでいますが食物を摂ると大きくふくらみます。この検査は食道、胃の病変を探す検査です。

胃バリウム検査でみつける代表的な病気

胃のポリープ・がん、粘膜下腫瘍、潰瘍、胃炎、憩室

2 検査の内容

バリウムを飲む前に、胃が動いていると検査しにくいいため、動きを少し抑えるための注射を肩にします（筋肉注射）。健康診断の検査の場合は注射をしません。



チョトお願い

次にあげる病気を言われた事のある方は注射前にお知らせ下さい。その病気に負担がかからないような薬に変更して注射します。

《緑内障、心臓病（狭心症・不整脈）、前立腺肥大、甲状腺機能亢進症、糖尿病、胃の手術をした事がある》

胃の粘膜を十分に広げて伸ばすために、炭酸の顆粒（発泡剤）を飲みます。
少量のバリウムを飲みます。飲む量は約50mlです。



チョトお願い

お腹が張ってきますが、ゲップをしないように気をつけてください。ゲップをしてしまうと、せっかく広がった胃の壁が萎んでしまい、病気を発見しにくくなります。

1, 2枚撮影をした後、残りのバリウムを飲んで頂きます。飲む量は約100mlです。
(食道の撮影を行いますので、バリウムは指示通りの方法で飲んでください。)



飲みやすくするために“香り付け”をしていますが、できるだけ味わわずに飲んで下さい。

発泡剤とバリウムを飲んだら胃全体の粘膜にバリウムをつけるために身体を動かします。右を向いたり左を向いたり、また回転をしたりなど、身体を動かして、いろいろな方向から胃の写真を撮ります。写真の枚数は12枚前後、検査時間は約15分です。



身体の動かし方によっては、バリウムが小腸に流れて大変診断しにくい写真となります。身体の動かし方は撮影技師の指示に従うようによろしく願いいたします。

3 検査の準備

【検査前日】

- ◆ 前日の夕食は、9時までにすませ、それ以降は食べたり飲んだりしないで下さい。胃、腸の中をきれいにし、正確な検査を行うためです。
- ◆ 薬服用中の方は、医師に相談して下さい。
- ◆ アルコール分をとらないで下さい。

【検査当日】

- ◆ 検査が終わるまで、一切食べたり飲んだりしないで下さい。
- ◆ タバコも吸わないで下さい。
(タバコを吸うと唾液が多くなり、診断しにくくなります。)

【検査前】

- ◆ 緑内障、心臓病(狭心症・不整脈)、前立腺肥大、甲状腺機能亢進症、糖尿病、胃の手術をした事がある方、薬にアレルギーのある方は、お申し出ください。
- ◆ 時計、アクセサリ、義歯、メガネ等は、はずして下さい。

4 検査後の注意

- ◆ 硫酸バリウム製剤投与後の重篤な副作用として、ショックなどの重篤な過敏症（アレルギー症状）が発現することがありますので、下記のような症状が発現したらすぐに医療機関に連絡して適切な処置を受けてください。（じんましん、気分が悪い、顔色が青白くなる、手足が冷たくなる、喉がつまる、息苦しい、息がしにくい など）
- ◆ 検査の前にした注射のために、目がチラチラしたり、ものが二重に見えたり、動悸がしたり、低血糖を起したりすることがあります。検査直後は車の運転はしないで下さい。（1時間以上お待ち下さい）歩行にも注意して下さい。
- ◆ バリウムによる便秘を防ぐため、下剤は指導された方法でキチンと服用して下さい。下剤は早い人で2時間後、遅い人でも6時間後には効いてきます。また、できるだけ水分を多くとって下さい。検査後の白い便はバリウムのためですから心配ありません。
- ◆ 帰宅後もできるだけ多くの水分を摂ってください。
- ◆ 便意を感じなくても、定期的にトイレに行くよう心がけてください。
- ◆ 検査後の数日間は、排便の状況を確認していただき、バリウム便が排泄されない場合や持続する便秘、腹痛などの症状があらわれた場合には、直ちに医療機関を受診してください。
- ◆ バリウムが排泄されず、長時間腸内に残っているとだんだん硬くなり、より排泄しにくくなります。
- ◆ 便秘しやすい方はお申し出ください。